

ミユゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

2018 春の企画展

忘れられない、

浜口陽三、カロリーナ・ラケル
2018年1月16日[火]～4月15日[日]

アンティツチ、前原冬樹、向山喜章



カロリーナ・ラケル・アンティッチ 「林の中のかくれんぼ」 2007年
アクリル・麻キャンバス 120×123cm ©Carolina Raquel Antich, 2017



前原冬樹 「一刻(漂流物)」 2005年 木彫(檜、柘植、朴)、油彩
サイズ可変(全長およそ50cm)

向山喜章 「Luminous-Y」 2010年 紙、水彩、ワックス
38×45.5×2.5cm

会 場：ミユゼ浜口陽三・ヤマサコレクション1階、地下1階
開館時間：平日 11時～17時／土日祝 10時～17時（最終入館16時半）
休館日：毎月曜日（2月12日は開館）、2月4日〔日〕、2月13日〔火〕
入館料：大人 600円／大学・高校生 400円／中学生以下 無料
ナイトムード・シアター第1・3金曜日 20時まで開館（最終入館19時半／2月19日・2月26日・3月2日・3月9日・3月16日・4月6日）
※2月4日〔日〕はイベント開催のため会場が貸切しにとなります。
※2月12日〔火〕はバレンタイン開催のため会場が貸切らるだけになります。

Musée
Hamaguchi
Yozo :
Yamasa
Collection

銅版画家・浜口陽三は、さくらんぼや毛糸などのモチーフを選び、カラーメソント技法を用いて新しい作品世界を生みだしました。光を帯び闇から浮かび上がる静物は半世紀たった今でも新鮮に映ります。

本展では、身近なものを題材にし、見る人に何かを思い起こさせ、胸を満たしてくれる作品を銅版画をはじめ、絵画、彫刻、映像といった多ジャンルから集めました。

カロリーナ・ラケル・アンティッチは、思春期を思わせる少女少女を、軽い筆致と透明感ある色彩で描きます。シンプルな構図と大きくとられた余白の中に、いくつもの感情と物語が内包されているかのようです。

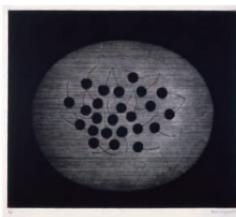
前原冬樹は、日常ふと目にする事物や景色に着眼し、ユーモアを

交えて写生するように彫刻します。一本の木から彫り出した像は、時の経過までも再現され、卓越した技巧が注目を集めています。向山喜章は、一貫して不可視に宿る光の表現に向き合ってきました。彼方から届く光を、色を重ね、ワックスで包むことで現わします。画面から光が滲み出て、その場にいる人々を包みこむような感覚をもたらします。

4名の作家のつくりだす空間は、私たちの記憶やイメージと交差します。現代の作家3名の新作を含む40点余りの構成です。

ひきだしの奥にしまってあった心のかけににささやきかける作品の数々をご覧ください。

*展会会顧問として「太田市美術館・図書館」学芸員の小金沢智氏をお迎えし、アドバイスをいただきました。



浜口陽三 「黒いさくらんぼ」 1956年 メゾチント、紙
29.3×34.3cm



カロリーナ・ラケル・アンティッチ 「鏡(部分)
2007年 アクリル・キャンバス 43x43cm
©Carolina Raquel Antich, 2017



前原冬樹 「一削(木片)」 2009年 木、油彩
17x5.5x7cm 摂影:Keizo Kioku



向山喜章 「Monoveda no.3」 2011年 参考作品
紙、水彩、ワックス 38x45.5x2.5cm
©Private collection Tokyo

浜口陽三 Yozo HAMAGUCHI

1909年和歌山県生まれ。1930年東京美術学校彫塑科を中退しパリへ、1950年頃から銅版画に本格的に取り組み1953年再び渡仏。1957年東京国際版画ビエンナーレ、サンパウロビエンナーレで大賞を受賞。1984年サヌキ冬季オリンピックのポスターに採用される。2000年逝去。20世紀を代表する国際的な銅版画家。

カロリーナ・ラケル・アンティッチ CAROLINA RAQUEL ANTICH

1970年アルゼンチン生まれ。1990年後半からヴェネチアにて制作。2005年Italian Youth Art Prize受賞(翌2006年ヴェネチア・ビエンナーレに展示)。近年イタリア語版の吉本ばなな著書の表紙を手掛けている。「Art-U room」(東京)他、ニューヨーク、ブエノスアイレスなどで個展。

前原冬樹 FUYUKI MAEBARA

1962年東京都生まれ。1988年東京藝術大学の版画専攻卒業。主な個展に2004年「前原冬樹大形版画」(佐藤美術館、東京)、2008年「木彫 前原冬樹展」(おふせミュージアム・中島千波館、長野)。グループ展に2017年「アート・U room」(東京)他、ニューヨーク、ブエノスアイレスなどで個展。

向山喜章 KISHO MWAKIYAMA

1968年大阪府生まれ。主な個展に1998年「Cool Touch -クリアオーラム35」(水戸芸術館)、2017年Yutaka Kikutake Gallery(東京)他。グループ展に2001年「拡張する絵画 -色彩による試み」(佐倉市立美術館、千葉)、2016年「宇宙と芸術」(森美術館、東京)、アートサインスミュージアム、シンガポール)他。

EVENT

◆出品作家による解説と作品鑑賞会

聞き手 小金沢智(太田市美術館・図書館 学芸員)
参加者 カロリーナ・ラケル・アンティッチ、前原冬樹、向山喜章

鑑賞会顧問の小金沢氏とともに、出品作家3名に作品の前で解説をしていただきます。一人20分程度。どなたでもご参加できます。

日 時 2018年3月24日(土) 15:30~
参加費 無料

◆鈴木昭男 サウンドパフォーマンス

一空間に放たれた音の形は、聴くことの原点を蘇らせる
鈴木昭男

日 時 2018年2月4日(日)

14:00~(1時間程度)

定 員 50名

料 金 800円(入館料込み)

お申込方法 2018年1月16日(火)

12:00~ 電話にて受付開始(先着順)

鈴木昭男 ©1941年生まれ、身近な素材を使って音の場をつくりだす。「なげかけ」と「たどり」として始めた、自然や春などの「聴く側にまわる」姿勢で創作を展開。世界各地での芸術・音楽祭などに招かれ、探求を深めています。

◆親子向けワークショップ

カロリーナ・ラケル・アンティッチ
「記憶を描く」

出品作家アンティッチ氏とともに、忘れない記憶や思い出を絵の具を用いて描きます。

講 師 カロリーナ・ラケル・アンティッチ

日 時 2018年3月25日(日)14:00~16:00

定 員 親子ペアで9組

料 金 2,000円(ペア料金、材料費・入館料込み)

持ち物 汚れてもよい服装またはエプロン

お申込方法 2018年2月20日(火)

12:00~ 電話にて受付開始(先着順)

ACCESS

